

製造

オンサイト消去(訪問消去)してパソコン買取

事例内容 情報機器の買取・回収・データ消去 情報機器の訪問(オンサイト)作業

お客様施設内で物理破壊消去した後に回収して買取

検討課題

不要になった古いパソコンの保管場所を近日中に取り壊すことになっており、保管していたパソコン自体の処遇を決めかねておりました。

保管場所が無くなる事で、古いパソコンを他の場所に移動させて安全に管理したかったのですが、移動させるパソコンの総数は700台ほどあるため、セキュリティ体制を整えた新たな保管場所を作るのが難しいとの事で、廃棄処分を検討されておりました。

オンサイト消去(訪問消去)してパソコン買取



訪問してデータを消去。訪問時には入室前に金属探知機検査で身体・手荷物チェックしてから作業を実施。終了後にも同様に確認。

解決

基本的には先方内で使用しているデータ消去ソフトによりデータを消去しておりましたが、先方のセキュリティポリシー上、最終処分するには記憶媒体のハードディスクを物理破壊してからではないと施設外には出せないとの事でした。

当社の訪問消去サービスをご紹介させていただき、後日専用機材をお持ちして物理破壊させて頂きました。

訪問前に作業員と持込み機材を申請し、訪問時には作業員名簿と本人確認、持込み機材の確認、金属探知機検査による手荷物検査をお客様と相互確認した上で入室。

元々頂いていた処分PCの機器リストと現物のパソコンを照らし合わせるために、筐体にバーコードシールを貼付けし、1台毎にお客様管理番号とメーカー等の情報を取得してデータベース化して紐付け。パソコンからハードディスクを取り外して、筐体に貼り付けたバーコードシールと同じバーコードシールを貼付けし現物とデータベース上で改めて紐付け。

データベース上で紐付けした上で、物理破壊対象のハードディスクの写真を破壊前に撮影し、ハードディスク専用の物理破壊機で破壊後の写真も撮影。お客様と処分対象機器の作業を相互確認した上で、記憶媒体が入っていないパソコン筐体を2つの工場から回収させて頂きました。

<対象機器>

工場1 ・ノートPC約200台 ・デスクPC約150台 工場2 ・ノートPC約400台

ポイント

オンサイト消去サービス

2拠点からパソコン買取

処分機器のデータベース化

身体・手荷物・機材確認



入室前に金属探知機による身体チェック



HDD物理破壊機による4点穴あけ